

広報

# 中部の森林



写真：「開田方面から望む木曾御嶽山」(木曾署管内)

私の森語り「野生鳥獣の命を通し、自然環境との共存  
共栄を目指す」信州富士見高原ファーム 戸井口 裕貴

## 特集

- ・令和5年度治山・林道工事コンクール表彰式
- ・森林・林業・森林土木に関するWeb勉強会

## 各地からの便り

- ・森林ボランティア団体が素材生産現場を見学
- ・【能登半島地震】山地災害緊急展開チームへの職員派遣 ほか

## シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、  
秘蔵写真・今は昔の林業、お役に立ちます国有林



林野庁中部森林管理局



2024/No.240

# 令和五年度 治山・林道工事 コンクール表彰式

【治山課・森林整備課】

三月七日、中部森林管理局において「令和五年度治山・林道工事コンクール表彰式」を行いました。このコンクールは、国有林野の公益的機能を高度に発揮させ、林業の成長産業化等の推進に貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、工事における計画、設計・施工の適正化及び技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的に実施しています。

今回のコンクールでは、森林管理署等より推薦された令和四年度の工事が審査対象となり、有識者を含めた審査委員会において、林野庁長官賞四件、中部森林管理局長賞十二件の工事が選定されました。

また、林野庁長官賞を受賞した工事の主任技術者、現場代理人及び監督職員の九名の方が中部森林管理局長賞を受賞されました。



受賞者と関係者全員による記念撮影

表彰式では、井口森林整備部長から審査報告を行った後、今泉局長より賞状が授与されました。なお、長官賞の授与式は、局長表彰に先立ち二月十五日、林野庁において行われました。事業者の皆様方には、今後とも技術の研鑽、創意工夫等により、優良で模範となる工事を実施いただくことを期待しています。

## 林野庁長官賞受賞工事



トヤノ沢復旧治山工事 施工者 奥田工業(株)



北御所川復旧治山工事 施工者 (株)吉澤組



一ノ瀬林道災害復旧工事 施工者 (株)梅田組



大門本沢林業専用道新設ほか工事 施工者 (株)羽田組

治山・林道工事コンクール賞状授与者名

1. 中部森林管理局長賞(賞状授与) 治山8社 林道4社

工事別	署所名	工 事 名	会社名	役職名	代表者氏名
治山	富山	スゴ谷 <sup>たにかりゅう</sup> 下流復旧治山工事	新栄建設(株)	代表取締役社長	高平 公輔
治山	富山	北又谷 <sup>きたまただに</sup> 復旧治山工事	伊藤建設(株)	代表取締役	伊藤 甚宰
治山	中信	蒲原沢 <sup>がまほらざわ</sup> 3復旧治山工事	(株)笠原建設	代表取締役	鈴木 秀城
治山	東信	板橋川 <sup>いたばしがわ</sup> 復旧治山工事	木下建工(株)	代表取締役	木下 修
治山	南信	キツカケ <sup>さわ</sup> 沢復旧治山工事	スワテック建設(株)	代表取締役	柿澤 充
治山	伊那谷	鳶ヶ巣 <sup>とびがす</sup> 復旧治山工事	大協建設(株)	代表取締役	小澤 さとる
治山	岐阜	御厩野 <sup>みまやの</sup> (鞍掛川)復旧治山工事	(株)梅田組	代表取締役	梅田 桂司
治山	東濃	鎗ヶ入谷 <sup>やりがいに</sup> (本流)復旧治山工事	(株)佐々木工務店	代表取締役	佐々木典博
林道	富山	三本松 <sup>さんぼんまつわり</sup> 割林業専用道新設ほか1工事	(有)境工業所	代表取締役	境 やすし
林道	南信	三峰川 <sup>みぶがわ</sup> 林道災害復旧工事	宮下建設(株)	代表取締役	宮下 金俊
林道	飛騨	松谷 <sup>まつたに</sup> (山中峠)林業専用道新設工事	橋本建設(株)	代表取締役	橋本 伸一
林道	東濃	白川 <sup>しらかわ</sup> 付知林道改良工事	(株)中島工務店	代表取締役	中島 のりお

2. 中部森林管理局長賞(賞状授与) (林野庁長官賞受賞者の現場代理人等) 9名

工事別	署所名	工 事 名	現場代理人	主任技術者	監督職員
治山	伊那谷	北御所川 <sup>きたごしょがわ</sup> 復旧治山工事	青木 広司	青木 広司	大西 正昭
治山	木曽	トヤノ <sup>さわ</sup> 沢復旧治山工事	森下 恭兵	むぎしま かずき	佐々木 竜也
林道	東信	大門本沢 <sup>だいもんほんざわ</sup> 林業専用道新設ほか工事	小山 雄輝	小山 雄輝	俣野 篤樹
林道	木曽	一ノ瀬 <sup>いちのせ</sup> 林道災害復旧工事	梅田 通	梅田 通	きゅうご かずき

現場代理人・主任技術者及び監理技術者が兼務している場合は、上位の役職者を表彰します。

3. 林野庁長官賞 4社(2月15日林野庁にて表彰済み)

工事別	署所名	工 事 名	会社名	役職名	代表者氏名
治山	伊那谷	北御所川 <sup>きたごしょがわ</sup> 復旧治山工事	(株)吉澤組	代表取締役	吉澤 利文
治山	木曽	トヤノ <sup>さわ</sup> 沢復旧治山工事	奥田工業(株)	代表取締役	奥田 和彦
林道	東信	大門本沢 <sup>だいもんほんざわ</sup> 林業専用道新設ほか工事	(株)羽田組	代表取締役	佐藤 公明
林道	木曽	一ノ瀬 <sup>いちのせ</sup> 林道災害復旧工事	(株)梅田組	代表取締役	梅田 桂司

そのような中、民有林関係者は、技術を習得する機会が少なく、また、普段の業務の中、講習会等に参加し知識や情報を習得するのは簡単ではありません。

近年目覚ましい発展を遂げている地理空間情報やICT等の先端技術を活用し、森林施業の効率化・省力化を推進する取組が必要となっています。この取組を効果的に進めるためには、先端技術に関する知識の習得が必要となり、あわせて、人材の育成も重要となります。



民有林関係者を対象にした  
森林・林業・森林土木に  
関するWeb勉強会

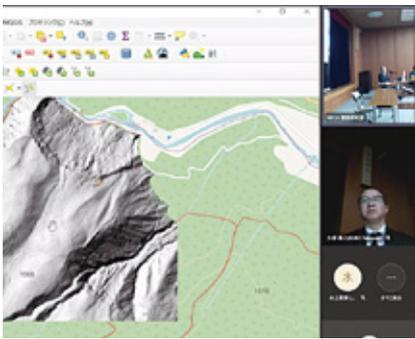
現場で活用  
できる知識や  
情報・技術

【企画調整課・治山課】

このため、中部森林管理局では、民有林関係者が普段の仕事の終わる時間帯に気軽に参加でき、先端技術に関する知識や情報を習得できるWeb勉強会を定期的に開催しています。

勉強会への参加は、当局Webサイトを通じて募集しており、これまで十一回開催し、延べ二百十六名の企業・団体に所属する民有林関係者の参加がありました。

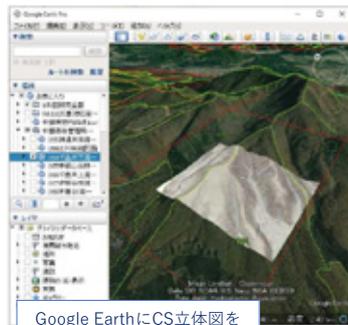
参加者からは、「QGISは、覚えるのにとっても苦戦しており、このような勉強会を開催していただき大変ありがたい」「現場から早めに戻り参加可能なので、とても参加しやすい時間設定である」「自分のスマホにCS立体図を入れて現場の確認に活用できた」「通常の



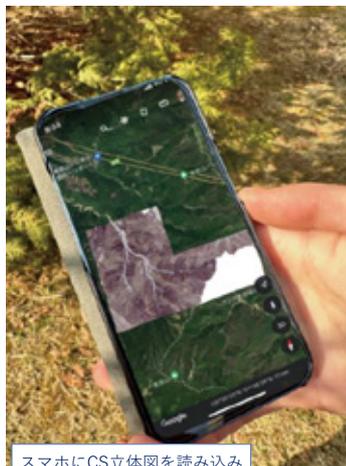
Web勉強会の様子

【勉強会の内容】

- 1時限目 : Google Earth を活用しよう
- 2時限目 : QGIS を活用しよう
- 3時限目 : 自分のスマホを活用しよう
- 4時限目 : QGIS を活用しよう
- 5時限目 : Google Earth を活用しよう
- 6時限目 : QGIS を活用した図面の作成
- 7時限目 : 属性を活用した様々な分析
- 9時限目 : Google Earth Webを活用しよう
- 8時限目 : QGISを活用しよう
- 10時限目 : 自分のスマホを活用しよう
- 11時限目 : QGISを活用しよう



Google EarthにCS立体図を読み込み立体的に確認



スマホにCS立体図を読み込み現場で活用



QGISにCAD図面を読み込み位置を確認。

講習会に比べ参加しやすく、急用の場合には業務を優先できる環境はありがたい」といった感想が寄せられるなど、知識や技術を習得する場の提供や参加しやすい開催方法はとても好評でした。

今後も、多くの民有林関係者に、現場で活用できる知識や情報・技術を発信していきます。

より、現場での踏査等が安全に効率的に実施できるとともに、作業の検討にも大いに活用が見込まれます。

《各地からの便り》

森林ボランティア団体が  
素材生産現場を見学

【愛知県森林管理事務所・名古屋事務所】

十二月十一日、「(一社)日本山岳会東海支部 猿投の森づくりの会」のメンバー六名が、愛知県北設楽郡設楽町段戸国有林において、素材生産現場を見学されました。

猿投の森づくりの会は、愛知県県有林や愛知県瀬戸市にある東大演習林をフィールドに、チェーンソーを使った本格的な森林整備をされている森林ボランティア団体です。

九月十二日に熱田白鳥の歴史館において勉強会を開催した際、「今後の森林整備活動の参考にするため、実際に生産事業の現場を見学したい」との要請を受け、愛知事務所の森林整備事業の受注者である(株)緑豊の澤田社長や従業員の方のご協力により、見学の機会を設けました。

事業地では、スイングヤーダによる集材とプロセッサ造材など高性能林業機械の実演のほか、近隣



の現場において生産された100年生を超える優良材「段戸SAN」の丸太等も見学されました。意見交換では、安全な伐倒、林業機械のメンテナンス、雇用や人材育成の課題など、多岐にわたる質問があり、事業者とボランティアで立場は違いますが、森林・林業への想いは同じであり、予定時間を超えて話が弾みました。

後日、参加された皆様から、林業機械の迫力、活き活きと働く若者、伐採箇所で広葉樹を残す配慮、段戸SANの木目の美しさ等への感心と対応への感謝が綴られた感想文をいただきました。

今後も、各団体等からの要請に応え、現地見学等を通じ国有林の取組をPRしてまいります。



作業現場の説明を受ける参加者

冬季の安全講習会を実施

【富山森林管理署】

一月十七日、運転経験の浅い若手職員五名を対象に、市内の自動車学校において、冬季における安全運転講習を行いました。

はじめに、自動車学校の教官より、積雪・凍結路での安全走行、交通安全全般について講話を受けた後、二班に分かれて、実技による講習を行いました。シミュレーターによる運転操作では、雪上でのカーブ走行や、降雪時における視界など、悪条件下での運転における事故のリスクを体感しました。更に、教習車を使用し急ブレーキ時の制動距離や、タイヤチェー



シミュレーターによる雪上運転

ンの脱着の実技を行いました。日ごろから、安全運転に徹している職員も、雪道走行での危険な体験をすることにより、身をもつて冬季の安全運転について学ぶことができました。

また、二月五日には、ロータリー式除雪機の操作講習会を行い、使用したことのない職員など、四名が参加しました。講師は経験豊富な職員が担当し、事故防止の動画を視聴したあと、除雪機を使用し、操作方法、安全対策、注意点等について実習を行いました。初めて使用する職員は、不慣れながらも雪を飛ばす場所やオーガの高さなど細心の注意を払いながら作業を行い、小雪が舞う寒い中でしたが、有意義な講習会となりました。



指導を受けながらの除雪作業

王滝村へ「村内図」を寄贈

【木曽森林管理署】

一月二十二日、木曽郡王滝村役場へ「王滝村・村内図」を寄贈しました。

これは、以前、王滝村の越原村長を表敬訪問した際、村長室に揭示されていた村内図が古く、青基調の色合いや少ない凡例により見にくいところがあると話題に上がったため、森林事務所において、新たに作成したものです。

図面には、民有林・国有林・林班界・村道・林道・水系等を入れるとともに、長野県における王滝村の位置や御嶽山頂、県境の峠、ダム湖等を明示することで、豊かな自然やランドマークが一目で分かるよう工夫しました。

王滝村は総面積の約九十六パーセントを森林が占め（うち国有林は約八十七パーセント）、良質な木曽ヒノキをはじめ木曽五木（ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ）の産地として知られています。

越原村長からは、「緑基調の色



村長室に掲示された図面と越原村長



説明をする森林事務所職員

合いとなり、森林に囲まれた村であることがよく分かるようになった「村の説明がしやすくなり、来客時には都度活用していきたい」との、感謝の言葉をいただきました。今後とも地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

岐阜県森林・林業関係合同発表会でニホンジカ対策について発表

【岐阜森林管理署】

二月二日に関市のわかくさ・プラザ多目的ホールにおいて岐阜県森林・林業関係合同発表会が開催されました。

本発表会は、岐阜県内の森林・林業に携わる関係者が一堂に会し、日頃の林業普及活動や試験・課題研究等に関する実績ならびに成果の発表を通じて、積極的な知識・技術の相互研鑽、交流、連携を深めるとともに、広く一般県民に対して最新の森林・林業に関する話題を直接提供することにより、岐阜県における森林・林業の発展に寄与することを目的に毎年開催しています。

発表は、林業普及活動、地域森林監理士の活動報告、森林研究所の研究成果、森林文化アカデミーや郡上高校の学生の発表など多岐にわたり、有意義な発表会となりました。

県内の森林管理署等からも毎年交代で一課題発表しており、今回



当署のニホンジカ対策について発表する様子

は「新たなシカの捕獲方法について」と題し、当署が取り組んでいる保護（守り）と捕獲（攻め）のニホンジカ対策について説明するとともに、昨年八月二十八日に当署管内の七宗国有林において現地検討会を実施した「小林区誘引捕獲法」を紹介しました。

今後とも、関係者等との交流や連携を図り、広く情報を提供できるように積極的に発表会に参加していきたいと考えています。

木と建築で創造する共生社会実践  
研究会のセミナーに参加

【木曽森林管理署・東濃森林管理署】

二月二日に東濃署管内、その翌日に木曽署管内において、木と建築で創造する共生社会実践研究会東海支部主催のセミナーが開催され、当地域の国有林や林業の歴史、木曽悠久の森の取組、管内で生育した八十年生以上の良質な人工林ヒノキをブランド化(高品質の木)し、市場や建築会社の方から高い評価を受けていることなどについて紹介しました。

平成二十六年に設立された同研究会は、「木の学校づくり、木の建築づくり」を核としながら、その切り口にとどまらず、持続可能な森林資源の活用を通じ、地域に根差す建築・産業・文化の継承と発展を図り、また、木の建築と木質エネルギーを結びつけ、自立的な循環型地域づくりを進めることにより、共生社会の理念の実現に向けて総合的・実践的に活動することを目的とされています。本セミナーでは、今年度開校した中津



木曽署にて国有林材のブランド化について紹介

川市「福岡小学校」の木の学校づくり、「木曽町役場」の木造新庁舎の設計施工、南木曽町「勝野木材」の高付加価値化した建築材製造について現地見学され、各署等の職員も見学や意見交換の場に参加させていただき、木造建築のデザインや木材利用に触れる貴重な機会となりました。今後とも木材に関係する様々な立場の方と情報を共有するなど、地域の大切な資源である木材の供給や森林の管理をしていきたいと考えています。

ふるさとの香り  
付知南小学校森林教室

【東濃森林管理署】

二月五日、中津川市立付知南小学校五年生より、「この地域の産業である林業の話を当署の下付知貯木土場で聞きたい」との依頼があり、森林教室を行いました。

付知南小学校のみどりの少年団は、昨年開催された「全国緑の少年団活動発表大会(国土緑化推進機構主催)」で最高賞となる「みどりの奨励賞」を授与されるなど、普段より森林にかかわる活動を積極的に行っており、昨秋には国有林内での森林教室も行っています。その時には、森林の働きを中心とした話をしましたので、今回は付知の林業の歴史を中心とした話をしました。

古くから、当地域は良質な「木曾ヒノキ」の産地で、産出された木材が全国各地のお城や神社・仏閣などの建設に用いられてきたこと、多くの木材をどのように伐り出して運んでいたのか、また、児童が疑問に思っていた下付知土場



伊勢神宮用のヒノキの香り確かめる様子  
(※貯木土場内は原則保安帽着用ですが、今回は重機等も稼働しておらず、児童の安全が十分確保できたことから特別に着用していません)

は何のために作られたのか、などについて説明しました。ちょうど土場には伊勢神宮用の注文材が並んでいたため、雪が降る中でも、木材に触れ、香りをかいでもらったところ、児童からは「大きな」「いい香りがする」などの感想がありました。森林教室の締めくくりに児童へ「付知の人にとって、この香りが故郷の香りのひとつでもあることを忘れないで」と伝え、引率する先生から「ヒノキが故郷の香りなんて素敵ですね」との感想がありました。故郷の森林を大切に、守り育てる心も育つことを願っています。

本講座は、名古屋の産業史を江戸から明治時代の「木」「鉄」「土」を視点に、それぞれの産業の発展と、それらの技術が今の名古屋の産業に与えた影響などの歴史を知ることににより、地元への愛着を深めることを目的に実施されています。

今回は、江戸時代から木材の集散地であり、名古屋の木材産業に影響を与えた白鳥貯木場の歴史を学ぶことを目的に開催され、当所職員から「名古屋の木材産業発祥の地 白鳥貯木場」と題して、歴史的な堀川との関わりや木曾地域からの木材の流送等について説明を行いました。

〈なごや学〉講座で  
名古屋の木材産業史を説明



【名古屋事務所】

二月十五日、名古屋市西生涯学習センター主催の四回にわたる講座「なごや学」名古屋産業史「木」「鉄」「土」から学ぶ」のうちの第二回目『名古屋産業史』「木」が二十三名の参加のもと、熱田白鳥の歴史館において開催されました。



興味深く木材産業の歴史を学ぶ受講者のみなさん

参加された受講者からは、「白鳥貯木場の長い歴史の深さがよく理解でき興味深かった」「名古屋の町づくりはこの木材がなければできなかつた」「孫にも一度勉強しよう伝えたい」など心強い感想が寄せられました。

今後、各団体等からの要請に応え、熱田白鳥の歴史を通じて森林・林業についてPRしていきたいと考えています。



躯体のみとなった森林事務所

立山森林事務所が  
完成しました



【富山森林管理署】

昨年九月より修繕工事を進めていました当署の立山森林事務所が一月に完成し、これまで最寄りの常願寺川治山事業所において実施していた森林官業務を、新しくなった庁舎で七カ月ぶりに再開しました。

中新川郡立山町芦峯寺なかにしかわかんたてやままちあしくらじに所在する当事務所は、昭和四十九年に建築され、経年による老朽化も著しく寒冷地仕様でもなかつたことから、かねてより大規模な改修を要望していました。



看板を設置する署長と森林官

立山の麓にある芦峯寺で地域の皆様とともに半世紀を過ごしてきた当事務所は、基礎、柱、梁、屋根を残して解体した後、新たに鉄筋コンクリート造の布基礎へと補強し、火打ちや筋交いで躯体の耐震強度を高め、床下・壁内・天井裏に断熱材を配置するとともに、換気システムも設置することで、改修前より快適な事務室と宿舍環境を構築しました。

多くの登山者や観光客が訪れる立山黒部アルペンルートや北アルプス立山連峰の国有林を管理する当事務所は、これまでも山小屋関係者や行政機関等との情報交換の拠点として活用されてきましたが、この改修を契機に、今まで以上に地元から愛され頼られる森林事務所となることを期待しています。



局長室において決意表明を行う派遣職員



出発する派遣職員を見送る局幹部と治山課の職員

令和六年能登半島地震  
 山地災害緊急展開チーム  
 への職員派遣

【治山課】

一月一日に発生した令和六年能登半島地震では最大震度七が観測され、石川県能登地方では多数の山地災害が発生し、人家・公共施設等に甚大な被害を与えたとともに、二次災害の防止と早期復旧が求められています。

このような中、二月十四日、林野庁本庁より、集落や公共施設裏の森林や治山施設の点検、山地災害発生箇所での現地調査等に係る「山地災害緊急展開チーム」への職員派遣の要請が各森林管理局にありました。

この要請を受け、中部森林管理局では、二月十五日に「山地災害緊急展開チーム」への職員派遣を決定し、二月十六日、局長室において、職員派遣の出発式が行われました。

出発式では、冒頭、今泉局長より、「他局から派遣されるメンバーとも力を合わせながら、これまで

培った技術・経験を遺憾なく発揮していただきたい」との派遣職員に向けた激励の言葉をいただき、その後、派遣職員を代表して伊那谷総合治山事業所の祐成治山第一係長より、「能登半島地震災害からの早期復旧の一助となるよう努力してまいります」との決意表明がありました。

なお、今回の緊急展開チームの活動は、二月十九日～三月八日(三週間)を予定されており、石川県金沢市の石川森林管理署を拠点に、輪島市・珠洲市内の民有林の山地災害箇所において現地調査を実施するなど、早期復旧に向けた技術的な支援を実施することとなっています。

〈中部森林管理局からの派遣〉

◇第一週◇

伊那谷総合治山事業所

治山第一係長 祐成 亮一

期間：二月十九日(月)～

二月二十二日(木)

◇第二週◇

局治山課 災害対策指導係長

城倉 恵介

期間：二月二十六日(月)

～三月一日(金)

シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【愛知森林管理事務所

田口森林事務所

首席森林官 鈴木 健二

田口森林事務所は、愛知県北東部の北設楽郡設楽町に所在し、段戸、一の又、松原の三つの国有林、五、六二二ハシを管理しています。



網目の細かいステンレス入り防護柵

主たる事業地となっている段戸国有林（五、二九四ハシ）は、大部分がスギ・ヒノキの人工林で、最も古くは明治二十六年に植林がされています。分収育林や分収造林の契約が満了し、伐採の時期に達した森林が多くあるため、伐採後の再造林が進んでいます。再造林では、植栽した苗木をニホンジカが食べてしまうため、防護柵や単木保護ネットにより植栽木を保護しています。それでも防護柵を飛び越えたり、網を喰いちぎったりして侵入するニホンジカがいるため、ステンレスを編んだ網を設置したり、部分的に柵を高くしたりしています。

守りだけではなく攻めの対策として、くくりわなによるニホンジカ捕獲を職員や地元猟友会による委託で行っています。

また、昨年六月に段戸国有林で行われた「小林式誘引捕獲法」の講習を受け、実践しているところ



裏谷原生林

す。成果としては現在のところ三十九頭ですが、昨年度より多く捕獲できています。ニホンジカとの戦いは、しばらく続きそうです。

段戸国有林の中心部には、愛知県では極めて貴重なモミ・ツガ・ブナなどを中心とした温帯性天然林の「裏谷原生林」（二三四ハシ）があります。

林内には東海自然歩道が整備され、気軽に散策することができま

す。現在は、スズタケの一斉開花後の枯死により、視界が開けています。

## ■未来の担い手へのメッセージ

今年度、再任用として古巣である当事務所に戻りましたが、植栽時に携わった造林地を見ると、よくぞここまで育ってくれたという気持ちになりました。

自然の中で働けるとても良い職場ですので、是非とも森林づくりの仲間になっていただきたいです。



くくりわなを設置する筆者



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ

「私の森語り」  
もりゆた

森林・林業との関わりの中で、  
様々な課題に挑戦されている方  
の取組を紹介いたします。



「野生鳥獣の命を通し、自然環境との  
共存共栄を目指す」



株式会社 信州富士高原ファーム  
と 戸井口 裕貴

■自己紹介

狩猟免許・銃砲を所持して、ちよ  
うど二十年経ちました。学生時代は  
地元を離れていましたが、地元に戻  
ると同時に狩猟免許・銃砲の所持許  
可を取得しました。きっかけは、父  
が狩猟をしていたからです。物心つ  
いた頃には、当たり前のように冬に  
なると父が犬とともに鉄砲を持って  
出かけていき、小学生になり始めて  
「あれ、もしかして鉄砲あるのは我が  
家だけ？」と気が付いたくらいに身近  
な環境でした。その頃は、めったに  
シカ・イノシシなどは獲れることも  
なく、キジ・カモといった鳥が主な  
狩猟対象でした。

でも、私が免許を取得した頃には、  
山に行くとシカを見ることができ、

十年足らずで普通に見かけること  
のできる野生鳥獣となり、その後、通  
年での有害鳥獣捕獲対象になりました  
た。捕獲しては埋設、一部自家消費  
する程度であり、趣味であったはず  
の狩猟が命を奪うだけの行為になっ  
ていく。さらに、しっかりと埋設した  
はずが、他の野生鳥獣に掘り起こさ  
れ、山の生態系が崩れるような様を  
目の当たりにして、何とかならないか  
と悩んでいたところ、このシカを重  
要な地域資源としてとらえ、「ジビ  
エ」として商品化できないかと思い、  
会社を設立しました。

■活動内容

当社の主たる事業は、地元猟友会  
が捕獲された有害鳥獣を精肉販売す  
ることです。野生鳥獣であるがゆえ



相棒と狩猟へ

に、食品として安全・安心であるこ  
とを知ってもらえるよう「国産ジビ  
エ認証」「信州ジビエ認証」を取得し、  
ホテルやレストラン、小売店などに  
扱っていただいております。



野生鳥獣は畜産動物とは違い、日々  
の捕獲頭数が不確定であり、大手外  
食チェーンからジビエを使いたいと  
のご相談をいただいても、安定供給  
・安定生産できないという課題があ  
りましたが、国産ジビエ認証ができ  
たことよって、同じ思いの全国各  
地の認証施設より肉を集荷し、大口  
トとして出荷できるようになり、新  
たに認証取得を目指す施設向けの講  
習会も実施しています。

また、都内の調理専門学校の課外  
授業では、先ほどまで山で生きてい  
たシカが精肉になる過程を見てもら  
い、命を通じて一頭から得られる各  
部位や聞きなれない希少な部位にも  
目が向いたように思えます。

最近では、ジビエを食べていた  
く、使用していただく機会を増やす  
べく、低温調理済みブロック肉など  
の商品開発もしています。狩猟者の

高齢化もあります。当施設がある  
ことよって、捕獲時の心の負担が  
減ったこともあり、農業従事者の猟  
友会への加入につながっています。

■メッセージ

肉や革・ペットフード等への利用  
によって、当施設からの残渣は創業  
当時に比べるとかなり少なくなりま  
したが、まだ若干活用できずに焼却  
処分をしている部分もありますので、  
まずは残渣ゼロを目指します。

春夏秋冬、山々の旬の植物を食べ  
ている野生鳥獣、味の変わる「四季を  
感じる肉」ジビエ」まずは食べてみて  
ください。



○連絡先

〒399-0211  
長野県諏訪郡富士見町富士見  
六六六一一五八八  
電話0266-65-3213  
<https://www.fujinikogen-farm-nagano.jp/>



シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第35回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

## 「名古屋営林局庁舎」

中部森林管理局の前身組織の一つ「名古屋営林局」は戦後の昭和二十二年に誕生し、富山県・岐阜県・愛知県の国有林を管轄していました。名古屋営林局の最初の庁舎は戦前までの帝室林野局名古屋支局の庁舎(名古屋市中区泉一丁目)を利用しています。



明治31年からの建物を利用していた初代の名古屋営林局庁舎(昭和20年代の写真)

名古屋営林局の庁舎として最も長く使われたのは昭和三十二年に名古屋市中区三の丸に竣工した建物で、名古屋城、愛知県庁、名古屋市役所といった施設に近接する官庁街にありました。



「上下写真」昭和三十年代頃の名古屋営林局庁舎



良くも悪くも大都市部にある営林局庁舎ということで、市民の皆さんとの交流や、国有林の現場への出張時の苦勞などのエピソードがあったようです。



名古屋営林支局及び中部森林管理局名古屋分局として使われた最後の庁舎(平成5年の完成時)

平成五年には名古屋市中熱田区の白鳥野木場敷地内に名古屋営林支局(昭和六十年に長野営林局と統合して支局化)の新庁舎が建てられますが、平成十一年には国有林野事業の再編により中部森林管理局名古屋分局となり、平成十六年には名古屋分局が廃止となったので、使われた期間が限られた庁舎となってしまったのが惜しまれます。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。



# 高標高地の希少な湿原とブナの天然林

## 水無湿性植物 希少個体群保護林

### 設定目的

水無湿原には、ミズバショウ、リュウキンカ、コバイケイソウ、カタクリ、ヤマトリカブト等が見られ、周囲は林齢一〇〇年を超えるブナの天然林となっています。これらの希少な個体群の保護・管理をしています。

### 地況・林況

水無湿原は、富山・岐阜県境に跨る水無山（一、五〇六<sup>ぶ</sup>）の西側に位置しており、標高一、四〇〇<sup>ぶ</sup>前後の緩やかな傾斜地に南北に細長く広がっています。周囲はブナを主体とする広葉樹の天然林であり、ヨウラクツツジ等も見られます。

地元NPO等と連携し、湿原へのワイヤーメッシュの敷設などイノシシの被害対策が行われています。

シリーズ

中部の保護林(第35回)

所在地  
富山県 南砺市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に、参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれらの事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



お役に立ちます  
国有林

民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ

## 信州プレミアムカラマツのブランド化

### 1. ねらい

良質な大径材、高品質な製品として信州カラマツの利用を推進するため、長野県や木材関係団体と協同して一定規格以上の丸太をブランド化し、市場に流通させています。

### 2. 概要

長野県を代表する樹種「カラマツ」は、先人たちの努力により、植え、育てられ、古いものは80年以上の時を経て、全国に先駆け大径材として生産、利用の時代を迎えています。

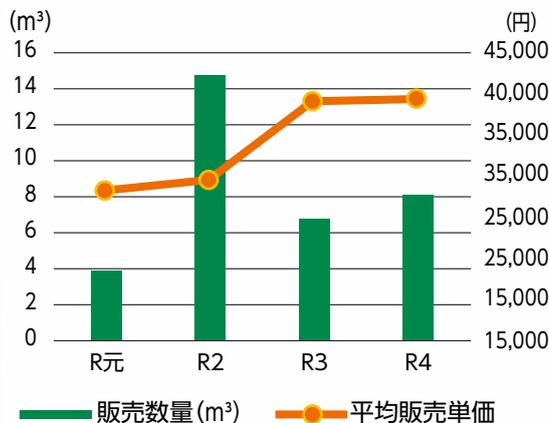
平成29年5月に開催された「国際ウッドフェア2017」の会場において、長野県、長野県森林組合連合会、長野県木材協同組合連合会とともに、長野県産の林齢80年生以上の高齢級カラマツ人工林から生産される径級30cm以上の良質な大径材丸太を「信州プレミアムカラマツ」として発表し、同年10月に初出荷しました。

### 3. 成果

民有林材と国有林材を合わせて平成29年度から販売を開始し、今までの最高単価(1m<sup>3</sup>当たり)は平成30年度に記録した45,000円でしたが、令和4年度に51,000円の高値に更新されました。



木曾町「三岳保育園」で使用されている信州プレミアムカラマツ



信州プレミアムカラマツの販売実績と販売単価

### 4. お問い合わせ先

資源活用課 電話026-236-2677



国民の森林・国有林

**冷却しながらジビエ搬出！  
EV自走式冷却搬送機**

広報「中部の森林」二二三号（令和三年十二月）の「私の森語り」にご寄稿いただいた、オンサイテック株式会社（にしづかわびんご）の西澤久友社長に農林水産省の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して開発された鳥獣対策搬送機（EV自走式冷却搬送機）を取材させていただいたのでご紹介します。西澤社長は、過去にも山で捕獲した鳥獣を現地で衛生的に食肉として利用するための一次処理ができる「ジビエカー（移動式解体処理車）」の開発に携わっております。

現在、当局では「小林式誘引捕獲法」の普及など、森林内におけるニホンジカの捕獲に取り組んでいます。奥山など、道路が整備されていない場所にジビエカーが入っていくことは非常に困難で、一次処理までかなりの時間を要します。捕獲した獲物をジビエとして活用するため、仕留めた現場から鮮度を保ちつつ消費者まで届けること、また、高齢化の進む狩

猟者が体力的に無理なく運搬できるように考えて開発されたのが、この「EV自走式冷却搬送機」です。操作はリモコンで行い、捕獲した獲物を電気力で冷却しながら森林内の道なき道を移動でき、約100m離れていても動かせるという点で、実際に操作させていただいたところ、その場で旋回させたり、軽自動車に積み込ませてみたりと、とても簡単に動かすことができました。

ジビエの活用については、農林水産省では農村振興局において積極的に対策を行っていますが、増えすぎた鳥獣で被害を受けているのは、農地だけでなく森林も同じです。関係機関などと連携した対応によりジビエの活用が進むことを期待しています。【局広報】



**みんなで歩いて健康になろう！  
ウォーキングアプリ導入**

林野庁共済組合では、健康増進に有効であるウォーキングを楽しむ生活に取り入れることができるアプリを導入し、若齢層も含めて健康を意識した生活習慣・運動習慣を広める取組を行っています。

ウォーキングアプリには、歩いた歩数によって個人のランキングや所属別のランキングが出る機能もあり、年末年始に行われた林野庁国有林野部管理課主催の部署対抗戦において、当局から参加した「マウント中部」が団体二位の成績を収めました。

もうすぐ春です。みなさんもアプリとともにウォーキングを始めませんか。【総務課】



（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。）

**編集長だより**

現在、片道1km弱の距離を毎日歩いて通勤しています。遠回りしてまで歩くことは考えていないのですが、ウォーキングアプリとともに毎日楽しく目標距離を歩くことができれば、体力テストで評価の低い持久力の向上が期待できそうです！暖かくなったらチャレンジしようと思います！

さて、今年度も広報「中部の森林」をお読みいただき、ありがとうございます（^v^）

今月号の表紙は、素敵な御嶽山の風景ですが、管内各地から美しい風景写真を広報にご提供いただいております、感謝しております！

これまでお寄せいただいた素晴らしい風景写真は、ホームページの「デジタル森林紀行（デジ森）」でもご紹介させていただいておりますので、こちらも楽しみください！！



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



51. 冬のヤドリギ（北信署管内）

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

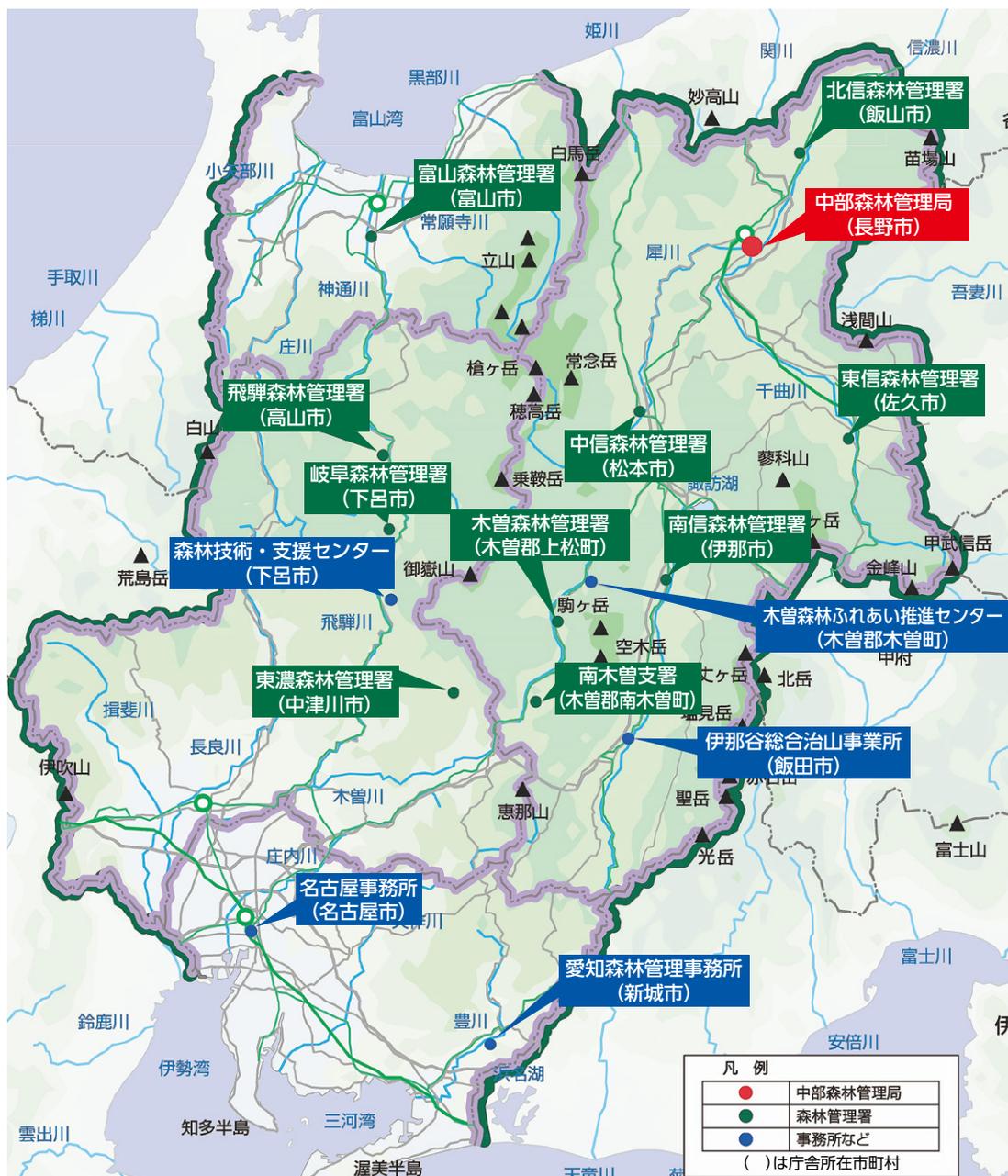


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoroo@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。